シリーズ共に学びましょう No50

学び人　行き交う町　たてしな

指導主事だより

教育委員会

# なんだか　うれしい

**相談時間等**　月・水・金曜日

●立科小学校/午前９時～午前11時30分
電話 0267－56－3131（呼）
●立科中学校／午後２時～午後５時
電話 0267－56－1076（呼）
●立科町児童館／
午前 11時50分～午後１時40分
電話 0267－56－0303（直通）
〔担当　指導主事　中島 一彦〕

# 野に出る子どもたち

「あっ芽が出てるよ！」と叫ぶDさん。
「えっ！」と驚きの声をあげてDさんの横にしゃがみこんだY先生。
「ホラホラ」とY先生に指さして説明をするDさん。
**Dさんの不思議さをきちんと受け止めるY先生。**
「あっ・・・これはね、今うめた種だよ。少し　土をかぶせておけば大丈夫」・・・そんなやりとり。
うめたばかりの土から、顔を出してしまった種。その種に、小さな指先で、そっと土をかけていくDさん。小さな種にやさしさを向けていくDさん。
子どもの不思議さを受け止めて、語り掛けるY先生。
Dさんの中に生まれていく一粒の種との物語。

**黒い土と小さな種と・・・土が種にどうかかわっていくのか、種が土にどうかかわっていくのか。命を感じながら、自分とのつながりを感じ始めていくＤさん。これから始まるツルインゲンとの暮らし。**

物語を読み終わると同時に「動物はどんなのが出てきた？」「花は　どんな色？」・・・次々と問いかけていたかつての私自身の授業をふり返っています。よかれと思ってやってきたことなのですが、物語を次々に細かな情報に分割して、子どもたちの理解を促進させようとしてきました。その時間内に「少しでも分かってほしい」と願って、一方的に語り続けたことは、結局、子ども自身がつかむべき「わかる」を遠ざけてしまっていたのではないか、そんな猛省を今更ながらしています。

野に出た子どもたち。タンポポに出会った子どもたち。タンポポの花を丁寧に摘んで、水の入ったペットボトルにそっと入れ込みます。変化していく色水。じっと見つめるＡさん。「少しずつ黄色になっていくよ」そんなことを教えてくれます。尚も目を凝らして見つめ続けていました。

**本やコンピューターから、すぐに取り出せる情報ではなく、自然の中で原体験から学ぶ体を育てていく子どもたち。**
**実際に五感で相手や対象にぶつかり続けるこどもたち。**
**様々な工夫や試行錯誤に没頭する姿の数々。**

**子どもたちはたくさんの分からなさを抱えているはずなのに、生き生きとしています。分からなさを抱えるからこそ、豊かな時間が確かに流れていきます。**
**「疑問➡ネット検索➡”分かった”」・・・そういう思考ではなく、問いや願いや分からなさを抱え込みながら生きる子ども時代こそ、豊かさと生きる力と学ぶ身体を育てていきます。**